

## ◆ 2021 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 エンハンスネイチャー荒川・江川

24A-37

代表者：理事長 小川 早枝子

URL :



### 1. 活動が必要とされた状況

1989 年に上尾市と桶川市境を流れる江川下流域にサクラソウ群落が見つかり、以来その保護に努めています。この荒川中流域には三つ又沼ビオトープや太郎右衛門自然再生地などありますが、江川のようなサクラソウ群落などは長年の自然破壊で残されていません。私達はこの荒川の豊かな原風景といえる江川の自然を荒川中流域の自然再生に役立ててようと思ひ立ち、まずは江川の自然の維持と増殖に励みました。この活動はボランティアで上尾市民が中心となって行われています。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

サクラソウ群落維持管理はもともと秋から初冬位までの活動でしたが、現在は一年中外来植物繁茂で駆除活動を行っています。春 3 月からは類い希な荒川の原生的な自然を解放して、維持管理や観察会を開催します。様々な団体が集まってきます。秋まで外来種駆除に明け暮れ、11 月中旬には見渡す限り背丈の倍以上のヨシを刈り、12 月中旬には刈った草の運び出しを 100 名以上のボランティアで行います。早春開花の植物たちは冬の日射しを十分に浴びることで開花する仕組みです。こうして一年中活動が滞ることがなく行われていますので、ほぼ毎日誰かがトラスト地で働いています

### 3. 活動の成果

もともと里山の農業と共に生きてきたサクラソウ群落ですが、多くのボランティアの協力でサクラソウを初めとした希少植物の開花は絶えることはありません。江川の自然を荒川中流域の太郎右衛門自然再生地にも広げようと、一昨年から 2 月に川島町立つばさ北小学校の生徒達と共にサクラソウなど 8 種類の希少種を移植しました。維持管理活動に太郎右衛門を訪れる多数の企業ボランティアたちも参加してくれています。

### 4. 今後に残された課題

サクラソウなどの希少種の維持管理活動は大変難しくなってきました。対気候変動対策も研究していかなければなりません。次世代の人々のためにこうした活動の重要性が今再認識され、「埼玉大学」、「上尾ものづくり協議会」、「上尾領工会」、「領家町づくり協議会」などの協力で地道な活動が継続されていますが、基本的には行政の理解と参画が必須です。ますます環境問題が重要課題となる中で、行政への働きかけも頑張っていきます。